

- (3)下痢、嘔吐等の胃腸障害〔低血糖を起こすおそれがある。〕
- (4)栄養不良状態、飢餓状態、不規則な食事摂取、食事摂取量の不足又は衰弱状態〔低血糖を起こすおそれがある。〕
- (5)激しい筋肉運動〔低血糖を起こすおそれがある。〕
- (6)過度のアルコール摂取〔低血糖を起こすおそれがある。〕
- (7)高齢者〔「高齢者への投与」の項参照〕

2. 重要な基本的注意

- 1) 本剤の使用にあたっては、患者に対し低血糖症状及びその対処方法について十分説明すること。特に、インスリン製剤と併用する場合、低血糖のリスクが増加するおそれがある。併用時の低血糖のリスクを軽減するため、インスリン製剤の減量を検討すること。〔「慎重投与」、「相互作用」、「重大な副作用」の項参照〕
- 2) 低血糖症状を起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときは注意すること。低血糖症状(めまい・ふらつき、ふるえ、空腹感、冷汗、意識消失等)が認められた場合には通常はショ糖を投与し、α-グルコシダーゼ阻害剤(アカルボース、ボグリボース、ミグリトール)との併用により低血糖症状が認められた場合には、α-グルコシダーゼ阻害剤が二糖類の消化・吸収を遅延するので、ショ糖ではなくブドウ糖を投与するなど適切な処置を行うこと。〔「重大な副作用」の項参照〕
- 3) 本剤は、他の速効型インスリン分泌促進剤に比べて作用持続時間が長いこと、投与後数時間は低血糖を起こすことがある。また、他の速効型インスリン分泌促進剤に比べて低血糖の発現頻度が高かったこと注意すること。
- 4) 本剤投与中は、血糖を定期的に検査するとともに、経過を十分に観察し、本剤を2～3ヵ月投与しても効果が不十分な場合には、より適切と考えられる治療への変更を考慮すること。
- 5) 投与の継続中に、投与の必要がなくなる場合や、減量する必要がある場合があり、また患者の不養生、感染症の合併等により効果がなくなったり、不十分となる場合があるので、食事摂取量、血糖値、感染症の有無等に留意のうえ、常に投与継続の可否、投与量、薬剤の選択等に注意すること。
- 6) 本剤は速やかなインスリン分泌促進作用を有する。その作用点はスルホニルウレア剤と同じであり、スルホニルウレア剤との相加・相乗の臨床効果及び安全性が確立されていないので、スルホニルウレア剤と併用しないこと。
- 7) 本剤の適用においては、糖尿病治療の基本である食事療法・運動療法を十分に行っただけで効果が不十分な場合に限り考慮すること。
- 8) 本剤を投与する際は、空腹時血糖が126mg/dL以上、又は食後血糖1時間値又は2時間値が200mg/dL以上を示す場合に限る。
- *9) 本剤とGLP-1受容体作動薬との併用における有効性及び安全性は検討されていない。

3. 相互作用

本剤は、主として薬物代謝酵素CYP2C8及び一部CYP3A4で代謝される。

併用注意(併用に注意すること)

1) 血糖降下作用を増強する薬剤

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
インスリン製剤 ^{注)}	低血糖症状(空腹感、あくび、悪心、無気力、だるさ等の初期症状から、血圧上昇、発汗、ふるえ、顔面蒼白等の症状を経て意識消失、けいれん、昏睡にいたる)、血糖降下作用が増強されることがあるので、血糖値モニター、その他患者の状態を十分に観察し、必要であれば減量する。特に、インスリン製剤と併用する場合、低血糖のリスクが増加するおそれがある。併用時の低血糖のリスクを軽減するため、インスリン製剤の減量を検討すること。α-グルコシダーゼ阻害剤との併用により低血糖症状が認められた場合にはショ糖ではなくブドウ糖を投与すること。	機序の異なる血糖降下作用が相加的に増強される。
ビグアナイド系薬剤 メトホルミン等		これらの薬剤の肝における糖新生の抑制及び末梢におけるインスリン感受性の増強作用による。
α-グルコシダーゼ阻害剤 アカルボース ボグリボース ミグリトール		サリチル酸製剤の血糖降下作用による。
チアゾリジン系薬剤 ピオグリタゾン		一部の糖尿病患者ではタンパク同化ホルモン剤により血糖低下作用を示すことがある。
DPP-4阻害剤 シタグリプチン等		テトラサイクリン系抗生物質のインスリン感受性増強作用による。
GLP-1受容体作動薬 ^{注)}		シクロスポリンはCYP3A4及び肝取り込みトランスポーターOATP1B1を阻害し本剤の血中濃度を増加させる可能性がある。
SGLT2阻害剤		CYP2C8阻害作用により、本剤の代謝が抑制されると考えられている。併用により、本剤の血中濃度が増加したとの報告がある。
** イメグリミン塩酸塩		
β遮断剤 プロプラノロール等		
モノアミン酸化酵素阻害剤		
サリチル酸製剤 アスピリン等		
タンパク同化ホルモン剤		
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン ミノサイクリン等		
シクロスポリン		
デフェラシロクス クロピドグレル スルファメトキサゾール・トリメトプリーム		
* ファビピラビル		

注)「重要な基本的注意」の項参照

